◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは10月30日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		10月29日現在	11月の予想			（月末値）
USD	ドル・円　(円)	157.71	154.0	～	162.0	158.0
	米利上げ観測がドルを支えるも、介入警戒が上値を抑制					
EUR	ユーロ・ドル（ドル）	1.118	1.09	～	1.14	1.12
	ユーロ・円　(円)	176.30	172.0	～	180.0	177.0
	フランス財政不安と景気減速懸念がユーロの重荷					
GBP	ポンド・ドル（ドル）	1.338	1.315	～	1.345	1.32
	ポンド・円　(円)	210.95	206.0	～	213.0	208.6
	英ポンドは景気・財政の見極め利上げ検討も、反発力は限定的					
AUD NZD	豪ドル・円　(円)	110.88	110.5	～	113.0	112.0
	NZドル・円　(円)	88.84	86.0	～	90.0	89.0
	豪ドルは利上げを支えに底堅く、NZドルは政治の不透明感に戻りの鈍い展開					
株式相場	日経平均　(円)	64,659	63,000	～	70,000	68,000
	上昇を見込むが、グローバルな株式上昇局面において、パフォーマンスは劣後する可能性					
	NYダウ　(ドル)	52,343	51,500	～	54,500	53,500
	童話「オオカミ少年」からの教訓を踏まえ上昇を見込む					
長期金利	日本　(%)	2.846	2.70	～	3.00	2.90
	リスク回避による金利低下は一巡し、利上げ・国債需給が再び意識されよう					
	米国　(%)	4.937	4.70	～	5.50	5.00
	悪い金利低下に対する見方の整理					

◆ 今月の注目ポイント

米中間選挙後の政策運営とAI投資の持続性を見極め

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
米国中間選挙	◎	**【議会構成と選挙後の運営】**中間選挙では上下両院の議会構成が焦点となる。政権の議会基盤が維持されれば、減税や歳出拡大への期待と財政懸念が金利上昇要因となり得る。現状はトランプ米大統領の支持率が低く、ねじれ議会となる公算が高い新たな財政措置は進めにくくなる一方で、大統領権限による通商政策や外交の変化には注意が必要。大統領の政策の優先度次第では地政学リスクが高まろう。
ハイテク株動向	○	**【AI投資の持続性】**10月に入り、ハイパースケーラーの巨額投資や資金調達負担への懸念から、AI関連株は調整した。11月は主要企業の決算や経営陣のスタンスを通じ、AI需要の強さや投資計画の継続性を確認する局面となろう。クラウド事業の成長や受注の拡大が確認されれば、過度な警戒感は和らぐとみる。一方、投資額の一段の上振れや外部調達への依存が意識されれば、株価の変動が大きくなろう。

◆ アジア通貨見通し

	10月29日現在	11月の予想			（月末値）
人民元・円	23.69	23.40	～	23.80	23.50
バーツ・円	4.677	4.50	～	4.80	4.60
ルピア・円	0.870	0.82	～	0.90	0.84

◆ 今月の重要日程

3日 (火)	豪	RBA理事会	
3日 (火)	米	中間選挙	
5日 (木)	日	10年債入札	
5日 (木)	英	BOE金融政策委員会	
6日 (金)	米	10月雇用統計	
10日 (火)	米	10月CPI	
10日 (火)	米	10年債入札	
12日 (木)	日	5年債入札	
16日 (月)	日	7-9月期GDP(一次速報)	
18日 (水)	世	APEC(中国・深圳、～19日)	
20日 (金)	日	10月CPI	
24日 (火)	米	5年債入札	

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

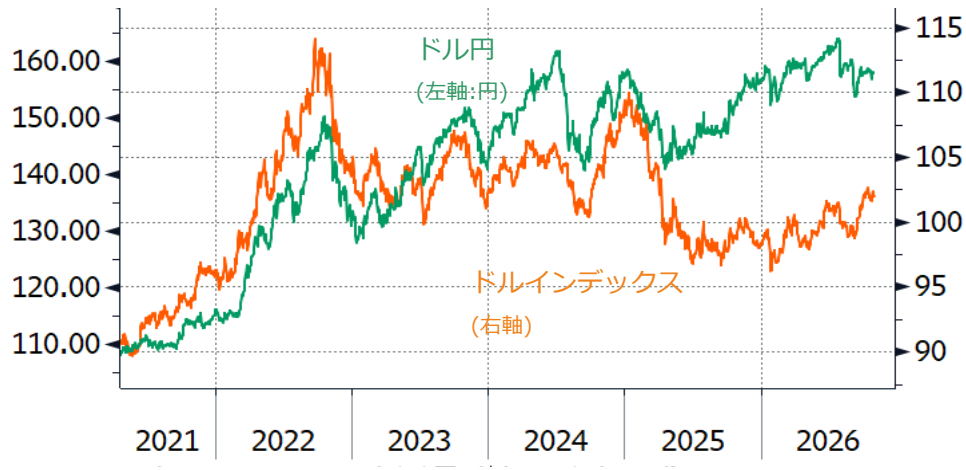
2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

◆ 今月の相場見通し①　為替（ドル･ユーロ）

ドル　円



出所：Bloomberg

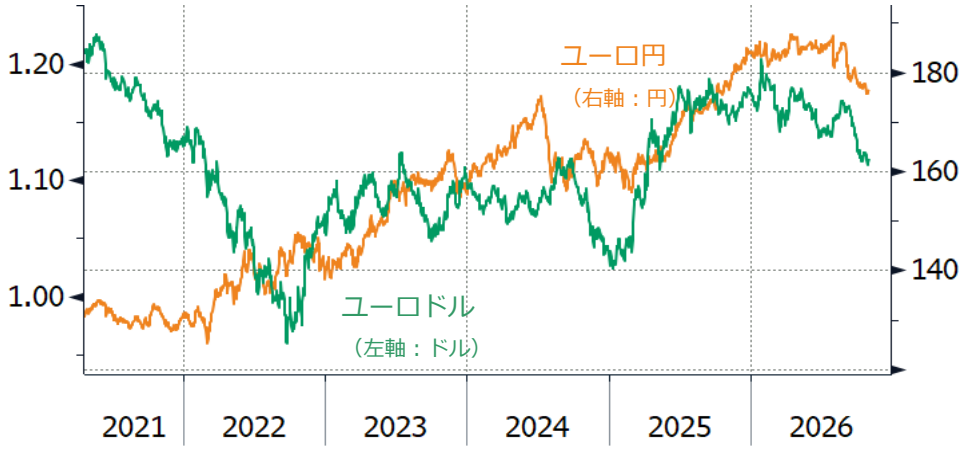
米ドル円	**154.00 – 162.00**円

米利上げ観測がドルを支えるも、介入警戒が上値を抑制

10月のドル円は157円台半ばで始まり、原油高を背景とする米インフレ懸念とFRBの追加利上げ観測から、158円前後で底堅く推移した。14日の米CPIが市場予想を上回ると一時159円に迫ったものの、上昇は続かなかった。下旬に入ると、AI投資の収益性への懸念から米ハイテク株が下落したのに連れて円買いが優勢となり、156円台まで下落する場面があった。ただし、その後はAI関連株への懸念の後退や米長期金利低下の一服を背景にドルが買い戻され、28日には158円前後へ戻した。

11月のドル円は150円台後半を中心とする推移を想定する。米国のインフレ高止まりとFRBの12月追加利上げ観測がドルを支え、日米金利差の急速な縮小は見込みにくい。一方、日銀も12月の利上げが有力視されており、円安が加速すれば追加介入への警戒も強まるため、160円を超えて一方向に円安が進む展開は現時点では想定しない。ただし、AI関連株の調整が再燃した場合や米雇用指標が下振れた場合には、円高が進む可能性があろう。また、3日に行われる米中間選挙の結果を受けた政策運営への思惑にも左右されるため、ドルの底堅さを見込みつつ、上下に振れやすい展開を想定する。

ユ　ー　ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル	**1.09 – 1.14**ドル
ユーロ円	**172.00 – 180.00** 円

フランス財政不安と景気減速懸念がユーロの重荷

10月のユーロ円は178円台で始まり、フランスの財政悪化懸念や予算成立への不透明感を背景に、ユーロ売りが優勢となった。エネルギー高による景気懸念と米国の追加利上げ観測も重荷となり、対ドルでは1.13ドル台から1.11ドル台へ下落した。対円では中旬にかけて177円前後でもみ合ったが、下旬にはAI関連株の調整に伴う円買いが重なり、175円台まで下落した。ユーロ圏の10月PMI悪化や、銀行貸出調査が示した融資姿勢の厳格化も、ユーロの戻りを抑えた。

11月のユーロ円は175円前後を中心に、上値の重い推移を想定する。ECBの12月追加利上げ観測が下支えとなる一方、高金利による借入需要の減少とエネルギー高が景気の重荷となろう。フランスの予算審議が難航すれば、財政懸念を通じてユーロが更に売られる可能性もある。中東情勢の緩和やフランス財政への不安後退は反発要因となるが、日銀も追加利上げが見込まれるため、180円台へ持続的に上昇する展開は想定しにくい。

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

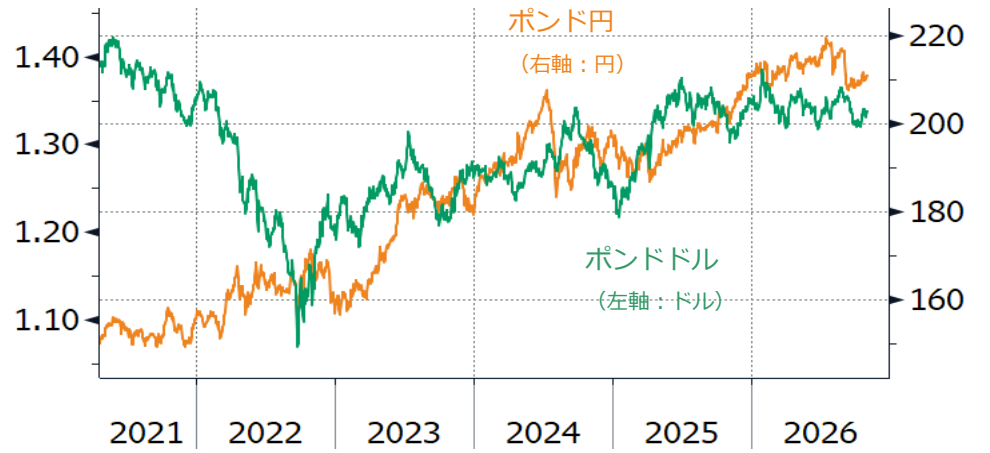
2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

◆ 今月の相場見通し②　為替（ポンド･豪ドル･NZドル）

ポ　ン　ド



出所：Bloomberg

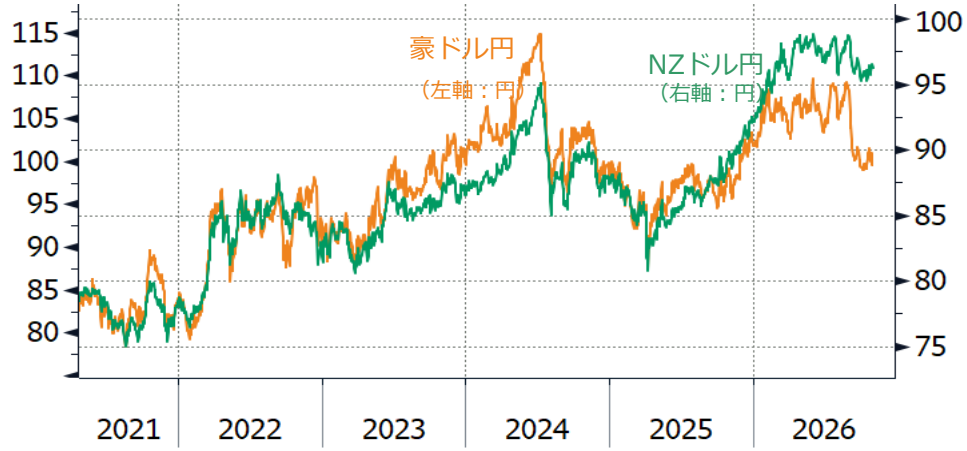
ポンドドル	**1.315 – 1.345**ドル
ポンド円	**206 – 213**円

英ポンドは景気･財政の見極め利上げ検討も、反発力は限定的

10月の英ポンドは上昇後、伸び悩んだ。FRB高官の利上げに慎重な発言やAI関連株の下落を背景に、米金利低下･ドル売りが進んだほか、英国景気の底堅さや英中銀の追加利上げ観測も支援材料となった。一方、ドルが持ち直すなか、秋季予算やFOMCを前にした持ち高調整もあり、上昇幅を縮小した。

11月の英ポンドは、底堅さを保ちつつも反発力に欠ける展開を見込む。英中銀のインフレ抑制姿勢や秋季予算の無難な通過が支えとなる一方、利上げ期待の織り込みが進んでおり、上昇には景気の底堅さを裏付ける材料が必要となろう。市場の関心は、物価高や増税、借入コストの上昇に家計･企業が耐えられるかに移るとみる。消費や雇用に減速の兆しが見られれば、ポンドは下押しされやすい。対円では日銀の政策正常化や為替介入への警戒もあり、上値の重い展開となろう。

豪　ド　ル　・　Ｎ　Ｚ　ド　ル



出所：Bloomberg

豪ドル円	**110.5 – 113.00**円
NZドル円	**86.00 – 90.00**円

豪ドルは利上げを支えに底堅く、NZドルは政治の不透明感に戻りの鈍い展開

10月の豪ドル･NZドルは、金融政策見通しや米ドルの動向に振らされる展開となった。豪ドルは弱い雇用統計が重石となったものの、米金利低下･ドル高の一服を背景に持ち直した。その後、インフレの再加速が確認され、RBAの利上げ実施観測から、底堅く推移した。一方、NZドルはRBNZが市場の利上げ予想に反して政策金利を据え置いたことや来月に総選挙を控えて不透明感強く、軟調に推移した。

11月の豪ドルは、RBAのインフレ抑制姿勢を支えに底堅く推移すると見込む。ただし、利上げ自体の織り込みは進んでおり、市場の関心は追加引き締めの余地と景気への影響に移ろう。雇用の弱さが続けば、追加利上げ期待が後退し、反発を抑えるとみる。NZドルもインフレ警戒が下支えとなるが、内需の弱さから豪ドル対比で戻りは鈍いであろう。総選挙後の連立協議や財政･金融政策の方向性も相場を左右する材料となる。両通貨とも対円では日銀の追加利上げ観測や為替介入への警戒が上値を抑えよう。

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

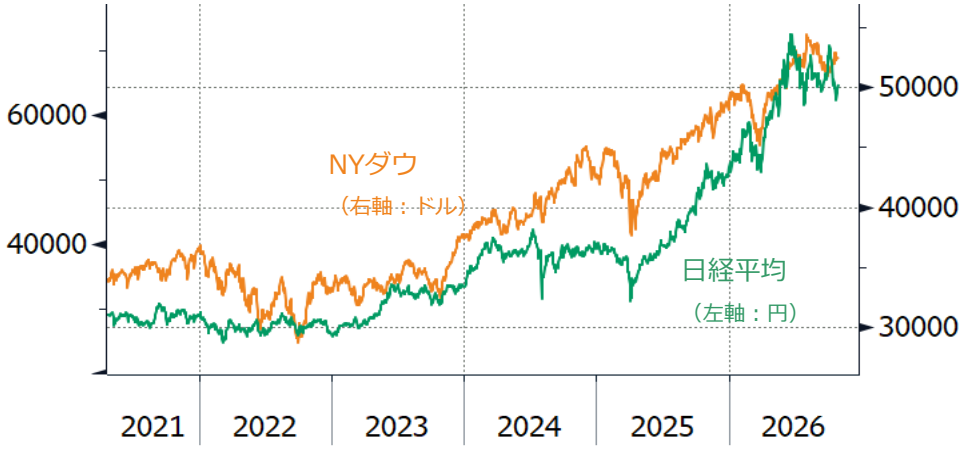
2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

◆ 今月の相場見通し③　株式、長期金利

株 式 見 通 し



出所：Bloomberg

日経平均	63,000 – 70,000円

上昇を見込むが、グローバルな株式上昇局面において、パフォーマンスは劣後する可能性

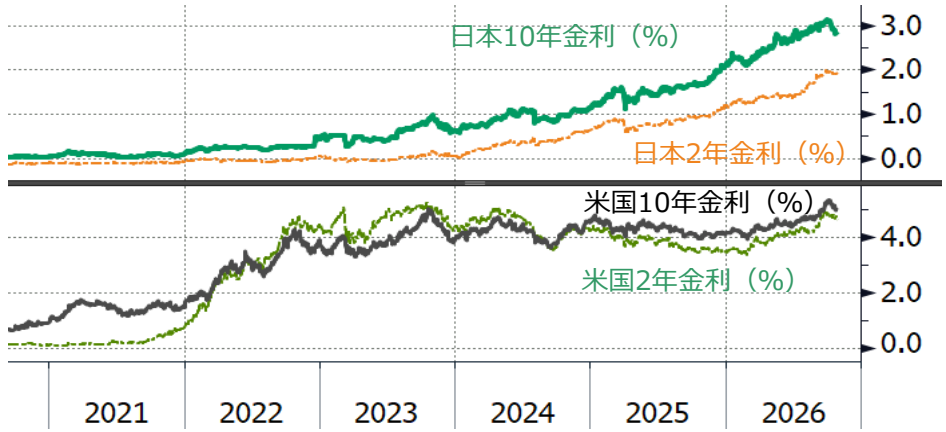
日本の主要ハイテク株は、半導体製造装置である。今般のハイテク株急落局面では、大幅な調整を強いられた。フェアバリューを逸脱しているため、過去のピーク圏まで回復することは見込まれるものの、製造装置の売上高成長率はピークアウトしつつあるため、今後到来するであろうファブレス、ファウンドリ企業の株価回復局面においては、出遅れ感がみられると予想する。上昇はするであろうが、グローバルな株式上昇局面では、日本株がやや出遅れると予想する。

NYダウ	51,500 – 54,500ドル

童話「オオカミ少年」からの教訓を踏まえ上昇を見込む

10月以降本格化しているハイテク企業の決算はAIブームの持続を示唆する底堅い内容であった。AIへの需要は架空のものである、と主張する空売り投資家は、またしても見通しを外した。童話「オオカミ少年」の教訓は、情報源への信頼とリスクを切り分け、独立した情報から発生確率と損失を評価することである。結果的にオオカミが来たからと言って少年の話を村人が聞くべきであったとは言えない。好況はいつか終わりを迎えるだろうが、それが今かどうかは別問題である。

長 期 金 利 見 通 し



出所：Bloomberg

日本国債10年	2.70 – 3.00%

リスク回避による金利低下は一巡し、利上げ・国債需給が再び意識されよう

月初の10年金利は3.1%台に乗せる展開となったが、 AI関連株の下落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから、金利は急低下し、一時2.8%を割り込む場面も見られた。

11月は年内の日銀追加利上げ観測に加え、年末の予算編成や国債発行計画を巡る需給悪化への警戒から、金利は上昇しやすいとみる。米国の中間選挙結果が判明し、ハイテク決算を受けてAI需要の強さが確認されるなか、過度なリスク回避姿勢も徐々に一巡するであろう。

米国債10年	4.70 – 5.50%

悪い金利低下に対する見方の整理

米金利は4.70%－5.00%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。足元はこのレンジ内にあるが、ハイテク株を中心とする株価の下落を伴っており、景気減速を織り込んだ悪い金利低下の側面が強い。米国経済のリセッション入りを前提とせず、同レンジ内に10年金利は収まるはずであるが、景気が減速しないことを再び織り込む過程で、レンジ上限を突破する可能性に留意したい。

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

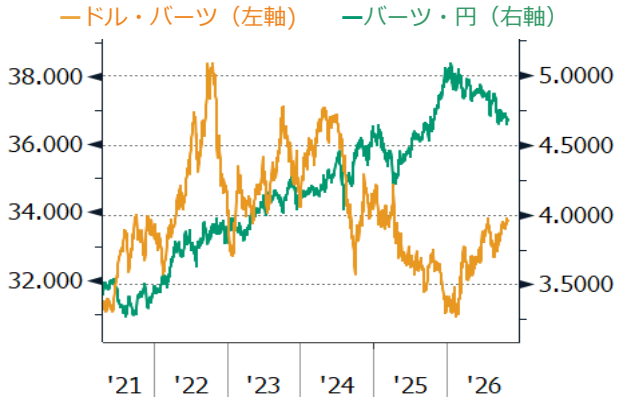
りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

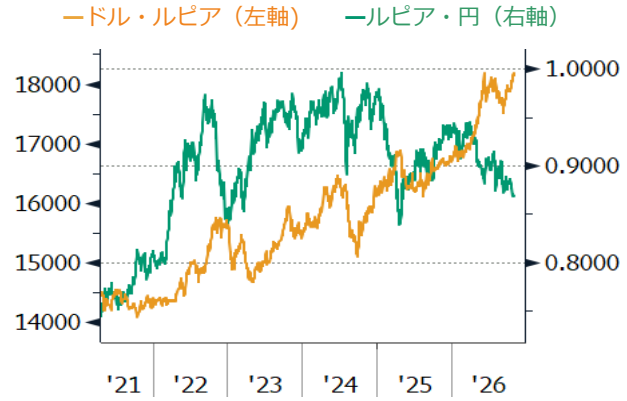
りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

◆ 今月の相場見通し④　新興国通貨（アジア）

		11月の予想			見通し
中国	人民元/円	23.40	～	23.80	**人民元は輸出・実需を支えに対ドルで底堅く、対円では上値の重い展開** 10月の人民元は対ドルで堅調に推移。好調な輸出を背景とした人民元需要が下支えとなり、約4年ぶりの高値をつけた。11月も貿易黒字や実需を下支えに対ドルで底堅い展開を予想。全人代常務委員会での政策説明や、深圳で開催されるAPECを通じた通商関係の進展に注目が集まろう。ただし、内需・不動産市場の弱さや当局の急速な元高への警戒が上昇を抑えるとみる。対円では日銀の追加利上げ観測や為替介入への警戒が重石に。
	ドル/人民元	6.50	～	6.70	
タイ	バーツ/円	4.50	～	4.80	**バーツは緩和的な金融政策と原油高を背景に上値の重い展開** 10月のバーツは対ドルで軟調に推移。米国の追加利上げ観測や中東情勢を背景とした原油高が重石となった。タイ中銀は28日に政策金利を1.00%に据え置き、景気回復を支える緩和的な政策運営を維持した。11月も対ドル・対円で上値の重い展開を予想。観光や輸出関連が底堅いものの、景気回復の鈍さや低金利が重石となる。原油高の一服が確認されれば下落圧力は和らぐものの、対円では日銀の追加利上げ観測が戻りを抑えよう。
	ドル/バーツ	33.0	～	34.0	
インドネシア	100ﾙﾋﾟｱ/円	0.82	～	0.90	**ルピアは通貨安定策が下支えも、資金流出懸念が重石** 10月のルピアは対ドルで軟調に推移。米金融引き締め観測や株式市場からの資金流出が重石となった。中銀は金利調整や為替ヘッジ優遇策を通じ通貨安定を図ったが、月末にかけて、6月以来の史上最安値圏で推移した。11月のルピア相場も安値圏での推移を予想。中銀の為替介入や高金利が下落速度を抑えるとみるが、米追加利上げ観測やMSCI新興国株指数からの除外懸念が上値を抑えるであろう。
	ドル/ルピア	17,900	～	18,500	







出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2026年	2027年			ポイント
		11～12月	1～3月	4～6月	7～9月	
ドル円	レンジ	150 ～ 170	150 ～ 170	150 ～ 170	150 ～ 170	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。また、FRBの追加利上げ観測もあって日米金利差拡大が意識されやすい。
	期末値	160	160	160	160	
ユーロドル	レンジ	1.06 ～ 1.18	1.06 ～ 1.18	1.08 ～ 1.20	1.08 ～ 1.20	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受け25年春より急速にユーロ高が進行した。一方、足元ではFRBの追加利上げ観測が高まっているほか、フランスの財政懸念等を受けて来年の仏大統領選頃まではユーロが売られやすい地合いとなりやすいか。
	期末値	1.12	1.12	1.14	1.14	
ユーロ円	レンジ	170 ～ 190	170 ～ 190	175 ～ 195	175 ～ 195	
	期末値	180	180	182	182	
ポンドドル	レンジ	1.28 ～ 1.35	1.28 ～ 1.34	1.28 ～ 1.34	1.28 ～ 1.34	英国の政局不安、財政懸念から不安定な展開が想定され、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。英中銀の引き締めスタンスや英財政への懸念が一服となれば徐々に下値リスクは薄らぐであろう。
	期末値	1.32	1.31	1.31	1.31	
ポンド円	レンジ	195 ～ 215	200 ～ 220	200 ～ 220	200 ～ 220	
	期末値	211	210	210	210	
ドル人民元	レンジ	6.65 ～ 6.85	6.60 ～ 6.80	6.55 ～ 6.75	6.55 ～ 6.75	堅調な輸出動向を背景に対ドルで元高が進行する展開を見込むが、当局は相場の安定を重視。元高進行も、一方向の動きではなく、緩やかなスピードとなろう。対円でも緩やかな円安基調となろう。
	期末値	6.70	6.65	6.60	6.60	
人民元円	レンジ	23.0 ～ 24.5	24.0 ～ 25.5	24.0 ～ 25.5	24.0 ～ 25.5	
	期末値	23.9	24.1	24.2	24.2	
豪ドル円	レンジ	110 ～ 116	108 ～ 116	108 ～ 116	108 ～ 116	豪中銀による追加利上げ姿勢維持は豪ドル円の下支えとなるが、中国景気減速もあり上値は重いであろう。
	期末値	113	112	112	112	
タイバーツ円	レンジ	4.50 ～ 5.00	4.50 ～ 4.90	4.50 ～ 4.90	4.50 ～ 4.90	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	4.80	4.70	4.70	4.70	

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
11/1(日)		(夏時間終了)	
11/2(月)		10月ISM製造業景況指数	(中) 10月製造業PMI
11/3(火)	(文化の日)	9月製造業受注	(豪) 準備銀行理事会 (米) 中間選挙
11/4(水)		10月ADP雇用統計 10月ISM非製造業景況指数 9月貿易収支	
11/5(木)	10年債入札 日銀金融政策決定会合議事要旨(9/17～18開催分)		(英) BOE金融政策委員会
11/6(金)	9月毎月勤労統計（速報）	10月雇用統計	
11/9(月)		3年債入札	(中) 10月CPI
11/10(火)	10月景気ウォッチャー調査 30年債入札 9月家計調査	10月CPI 10年債入札	
11/11(水)		(退役軍人の日)	
11/12(木)	10月企業物価指数 5年債入札	10月中古住宅販売 30年債入札	
11/13(金)		10月PPI	

	日本	米国	その他
11/16(月)	7-9月期GDP（一次速報値）	11月NY連銀製造業景気指数	(中) 10月生産・小売・投資
11/17(火)		10月小売売上高	(独) 11月ZEW景気指数
11/18(水)	10月貿易統計 20年債入札	10月住宅着工・許可件数 20年債入札 FOMC議事要旨	
11/19(木)	9月機械受注	11月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
11/20(金)	10月消費者物価指数		
11/23(月)	(勤労感謝の日)	2年債入札	(欧) 11月PMI（速報値）
11/24(火)		11月消費者信頼感指数 5年債入札	(独) 11月IFO企業景況感指数
11/25(水)	40年債入札	10月個人所得・消費支出 10月新築住宅販売 7-9月期GDP（改定値） 7年債入札 米地区連銀経済報告	
11/26(木)		(感謝祭)	
11/27(金)			
11/30(月)	10月鉱工業生産 10月住宅着工件数 2年債入札		(中) 11月PMI



◎注意事項　　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/25～10/8】

◎中国進出の日本企業１万118社、10年以降最少に

帝国データバンクは28日、中国本土に現地法人や生産拠点などを持つ日本企業の数が2026年6月時点で1 万118社だったと発表した。

前回調査の24年から2,916社（22.4%）減少し、調査を開始した10年以降では最少となった。中国経済の減速で売り上げの伸びが見込めなくなり、日中関係の悪化など予見できないリスクが増えたこともあって中国市場の見極めが進んでいる可能性があると指摘した。

【9/18～24】

◎3QのＧＤＰ成長率4.5%、5%割れ続く、前期からは回復

中国国家統計局は19日、2026年第３四半期（７～９月）の国内総生産（ＧＤＰ、速報値）が、物価変動の影響を除く実質で前年同期比 4.5%増加したと発表した。

前四半期の成長率を 0.2 ポイント上回ったものの、２四半期連続で５%を割り込んだ。消費の不振と投資の落ち込みを好調な輸出で補完する構図がより鮮明となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7	2026/8	2026/9
実質GDP成長率	%	-	4.5	-	-	5.0	-	-	4.3	-	-	4.5
消費者物価上昇率	%	0.7	0.8	0.2	1.3	1	1.2	1.2	1	0.5	0.8	0.9
都市部調査失業率	%	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4	5.2	5.1	5.0	5.2	5.3	5.2
輸出額	10億ドル	330.0	357.2	356.5	299.8	321.0	359.0	376.3	411.8	397.9	401.4	447.2
輸入額	10億ドル	220.1	245.3	236.6	210.5	271.2	274.8	271.4	286.2	285.6	282.6	313.7
経常収支	100万ドル	-	735,022	-	-	184,310	-	-	378,010	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8	3,342.1	3,410.6	3,442.2	3,416.3	3,418.8	3,438.3	3,400.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.11	7.04	6.97	6.91	6.90	6.84	6.79	6.78	6.78	6.74	6.71

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値　　主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

”上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国のシルバー経済

中国では高齢化が急速に進む中、「銀髪経済（シルバー経済）」が国家的な成長戦略の一つとして位置づけられています。シルバー経済を60歳以上と定義づけており、2025年末時点の60歳以上の人口は3億2,338万人、総人口の23.0%を占めており、2035年前後に4億人を突破し人口に占める割合が30%を超える見通しです。巨大な市場が形成されつつあります。シニア層のニーズに、自社の製品やサービスをいかに適合させるかが、今後の事業展開における重要なテーマとなっています。

今後の市場拡大の鍵を握るのは、「9073」と呼ばれる高齢者の生活・介護モデルです。これは、高齢者の約90%が自宅で生活し、約7%が地域（コミュニティー）の支援を受けながら生活し、約3%が施設に入居するという構造を示しています。

特に90%を占める住宅需要をいかに取り込むかが、ビジネス成功を左右するとみられています。2025 年には、高齢者向け住宅改修が政府の補助金対象に組み込まれ、住宅内装やキッチン・浴室の改修などが支援対象となりました。高齢者向け製品721万点の販売に繋がったほか、全国9,000カ所以上の住宅団地で高齢者向けバリアフリー改修が行われています。

健康管理やスマート機器の分野でも需要が拡大しています。2025年上半期には、高齢者向けフィットネス機器製造の売上高が前年同期比14.7%増、高齢者向けスマート・ウェアラブル機器製造が32.6%増となりました。住宅のバリアフリー化に加え、生活支援サービスも広がっています。

こうした需要の多くは自宅を中心に生まれており、旺盛な在宅需要に対応した製品やサービスを提供できるかが、事業成功の重要な要素となります。新たな体験消費へ関心を高めるシニア層が増える中、中国の巨大なシルバー経済は、新たな産業やビジネス機会を生み出しつつあります。



◎注意事項　　お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2026年8月のタイ経済、前月から概ね横ばい

・タイ中央銀行によると、タイ経済は全体として、7月から概ね横ばいで推移した。

・**製造業**：工業生産指数は前年同月比+4.4%となり、前月の+4.0%から伸び率が小幅に拡大した。AI・データセンター関連投資の拡大による電子・電機需要の増加に加え、食品・飲料、ゴム製品、自動車関連の生産増加が成長を支えた。また、米国の関税政策を巡る不透明感を背景に、一部では輸出向けの前倒し生産も見られた。

・**民間消費**：民間消費は前年同月比+3.7%と前月の+3.0から若干上昇。外国人観光客数の増加に伴うホテル・飲食店を中心としたサービス支出の拡大に加え、自動車および二輪車販売の増加を背景に、耐久消費財への支出も堅調に推移した。

・**民間投資**：民間投資は機械・設備投資の拡大を背景に前年同月比+21.8%となり、前月から大幅に加速した。一方、建設投資は工場や商業施設の建設低迷によりやや減少したものの、住宅建設は横ばいで推移した。

◆2026年8月の輸出額、電子製品好調で24%増加

・タイ商務省の発表による貿易統計は、2026年8月の輸出額は前年同月比で+24.3%の約5兆4,800億円となり、前月の+21.6%から伸び率がさらに拡大した。輸出は26ヵ月連続で前年実績を上回った。グローバルなデジタルインフラ整備やAI関連投資の拡大を背景に、電子・技術関連製品が引き続き輸出増加の主因となった。このほか、主要工業製品（同+27.1%）や農産物・加工品（同+1.4%）も増加した。

・米国、中国、日本、アセアン等主要な輸出市場向けは堅調に拡大した一方、南アジアと中東向けは減少が続いている。

◆タイ各地で記録的な豪雨による洪水被害

・9月下旬、タイ全域で記録的な豪雨が発生し、首都バンコクをはじめ各地で洪水被害が拡大した。工業団地内では約180～190工場が被災。また、従業員の出勤困難や物流網の混乱を受け、一部の日系自動車メーカーでは操業を一時停止する影響も出ている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7	2026/8	2026/9
実質GDP成長率	%	-	2.5	-	-	2.8	-	-	1.9	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9	-0.1	2.9	2.8	2.4	2.0	2.5	2.8
失業率	%	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	27,514	29,015	31,573	29,440	35,157	31,583	34,333	34,656	34,789	34,619	-
輸入額	100万ドル	30,026	29,099	34,876	32,273	38,497	41,604	40,044	41,191	38,400	37,101	-
経常収支	100万ドル	1,087	4,427	3,596	2,575	1,735	-4,316	-6,131	-1,772	698	2,352	-
外貨準備高	10億ドル	274.7	281.9	289.6	293.9	280.5	287.0	287.5	279.2	275.5	283.1	276.1
主要政策金利	%	1.50	1.25	1.25	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
対ドル為替レート	バーツ	32.4	31.5	31.3	31.2	32.3	32.3	32.5	32.9	33.5	33.0	33.2

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値　　主要政策金利：タイ翌日物レポ金利　　出所：Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/10/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー(2026年11月号)

りそなホールディングス　市場企画部
りそな銀行　国際事業部

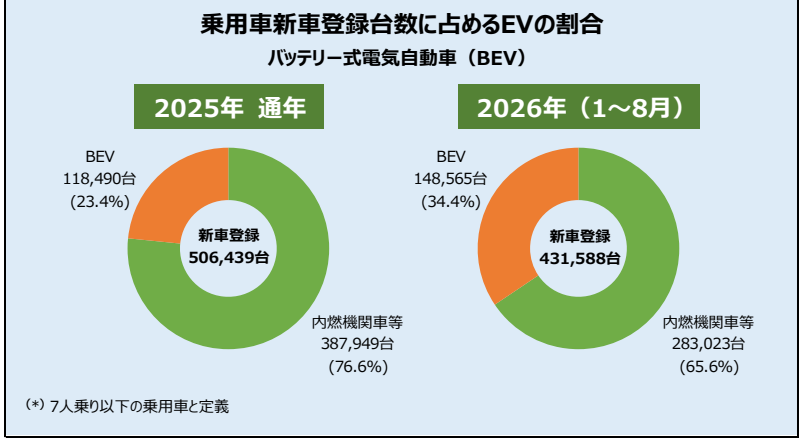
タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向

			2023年	2024年	2025年	2026年（1～8月）	前年同期比（%）	8月
【台数】								
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	349,605	101.0	49,727
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	610,106	101.4	74,919
		合計	**1,841,686**	**1,468,997**	**1,455,569**	**959,711**	**101.3**	**124,646**
	国内販売台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	171,539	111.1	22,724
		商用車	483,275	348,527	381,930	294,432	120.1	37,085
		合計	**775,780**	**572,675**	**621,166**	**465,971**	**116.6**	**59,809**
	輸出台数		1,117,539	1,019,213	935,750	565,037	93.7	69,724
二輪	生産台数		2,120,738	1,887,208	1,972,902	1,346,767	99.2	156,489
	国内販売台数		1,856,814	1,683,239	1,711,846	1,262,874	106.9	157,720
	輸出台数		822,608	938,762	893,198	597,806	104.9	66,099
【完成車輸出金額】（百万バーツ）								
四輪			719,992	699,163	621,662	390,500	96.0	49,074
二輪			68,589	63,969	61,596	42,581	102.8	4,428

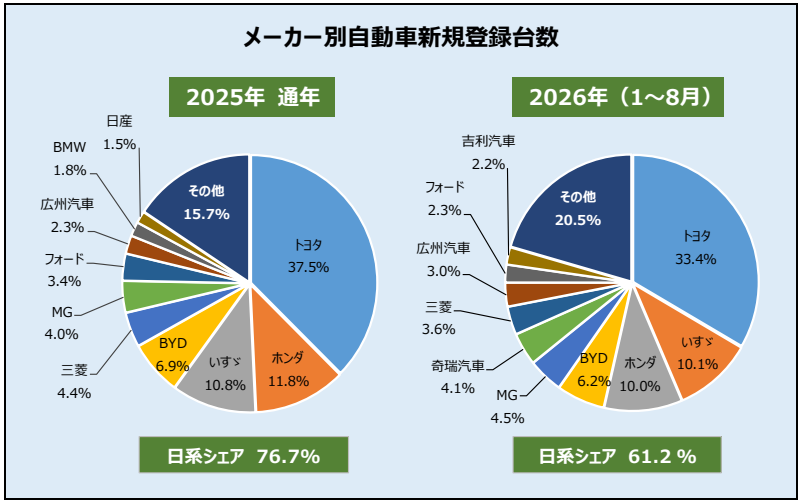
出所：タイ工業連盟（FTI）

電気自動車(*)の動向



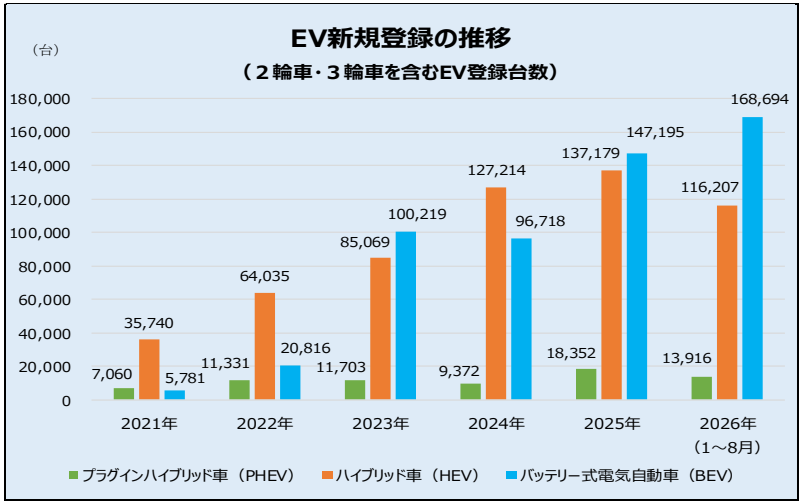
出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成

メーカー別自動車新規登録台数



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成

EV新規登録の推移



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。